

令和8年9月定例会 一般質問（概要）

令和8年10月1日7番

広野 瑞穂 議員



（広野 瑞穂 議員）

大阪維新の会 大阪府議会議員団の 広野瑞穂 です。

通告に従いまして、順次質問させていただきます。

1 ギャンブル等依存症対策について

府では、（仮称）大阪依存症対策センターの開設に向けて、9月9日から10月6日まで実証事業をしており、会場では依存症に関わるパネル展示や、コンシェルジュとの対話等を経て、必要に応じて相談につながることもできる試みとなっており、会場の雰囲気なども良く、入りやすく多くの方が来場されています。

依存症対策は予防から回復支援まで多岐にわたる中で、相談・回復支援が重要であることはもちろんだが、まずは依存症を正しく理解して頂く事、更には自身が依存症であるかもと不安を感じておられるような方の受け皿としてしっかりと機能していく必要もあり、府として効果的な啓発・情報発信を図って頂きたい。そこで、実証事業は10月6日までであるが、啓発エリアをご覧になった方からどのような声が挙がっているのか、またその声をどのように活かしていくのか、健康医療部長に伺います。

<西野健康医療部長>

今回の実証事業は、夜間や休日の支援ニーズや来場者の属性、啓発効果が高く気軽に利用しやすい施設のあり方等を把握し、センターの整備・運営等に反映することを目的に実施している。

会場に来場された幅広い年代の方からは、駅近の立地や入りやすい雰囲気から「気軽に立ち寄れる」、パネル展示を通じ「依存の仕組みが具体的に理解できた」といった声が寄せられている一方、パネルだけではなく体験型や映像展示の充実を望む意見もいただいています。

また、コンシェルジュとの対話等を通じて、相談につながるケースも相談全体の2割程度あり、啓発と相談の場所が近くにあることの効果を一定確認できたと考えています。

今回の実証事業でいただいたご意見を第2回目の実証事業でのパネルや体験型展示等の充実に活かすとともに、今年度末に策定する基本計画に反映し、対策センターの開設に向け、しっかりと準備を進めてまいります。

(広野 瑞穂 議員)

今回の実証事業は、ギャンブルだけでなく他の依存症に関わる相談も多数あったと聞いています。今回を踏まえ、次回では新たな指標も定めて取り組んで頂きたいと思います。

また将来的な対策センターは、ギャンブル依存症を筆頭に、他の様々な依存症に対しても相談できる、そんなセンターである事、更には相談者に対し、必要に応じて医療機関や民間団体へつないだ後も、可能な限りフォローアップの対応を行えるよう、依存症問題のセンターハブとして機能する事を検討していただきたい。



また、ギャンブルやアルコール、薬物はもとより、ゲーム、ネット、市販薬の問題など社会的課題となっているテーマにも目を向け、若年層への予防啓発なども意識しながら、教育庁などの連携も含めて開設準備にしっかり予算をつけて取り組んでいただくと共に、（仮称）大阪依存症対策センターの早期開設を目指し、開設後もトライアンドエラーを重ねながら、啓発内容等をブラッシュアップ頂きたいと思います。

2 高校における授業のカリキュラムの組み方について

府教育庁においては少子化に伴う応募者数の減少や、校舎自体の老朽化の課題を解決すべく、高校再編整備計画を速やかに進めて頂いているものと思います。また R10 年度よりアドミッションポリシー入試を実施するなど、府立高校の特色をより明確に示す方向で進めているところと思いますが、今後、世の中のニーズに見合った学校である事、また子ども達が自分の目標をもち、その目標を叶えるのに必要な学校である事が求められて行くと考えます。

そこで、本来の学校の特色とは何よりもそこで何が学べるか？と言う事では無いかと考えます。

とある工科高校の3年間の子ども達のカリキュラムですが、学年によって受講する授業が変化して行く中で、注目頂きたいのはこの赤枠で囲った必修科目や進路選択のために学校が生徒に受講するように設定している教科、科目の部分になります。

工科高校に進学した子ども達が何を学ぼうとして工科高校を選択したのかと考えた時に果たしてこの必修科目等をこれほど受講する必要があるか？と疑問を感じます。

本年4月に、我が会派にて北欧2か国を視察し、その中でフィンランドにありますヴァスキヴリ高校を視察して参りました。

フィンランドも義務教育は9年であり、高校は義務教育から外れる事になります。ただ、高校教育に関しては全てモジュール制、すなわち単位制で有りこの部分は異なる事になりますが、卒業要件としては最低 75 単位を必要としその内ある一定の必修科目の取得が必要であることは日本とさほど変わりません。

彼らの公用語は英語、フィンランド語、スウェーデン語の3か国語で、それぞれの科目にレベル1～16までの段階が設定されており、卒業の要件はそれぞれレベル1の取得が必須条件で、子ども達が必要ないと考えればレベル2以降を取得する必要が無く、その時間は自分たちが学びたい他の授業を受講する事に回せます。自身が意欲ある授業を受講する、義務教育でない以上、僕はこれが本来学ぶ姿ではと感じました。

さて日本では、学習指導要領に則り、その範囲の中でカリキュラムを組む必要があり、子ども達にとって学ぶ意欲のない授業も受講しなければならない苦痛の時間を強いられることになります。

文科省では R5 年3月に『今求められる力を高める総合的な探究の時間の展開（高

等学校編)』公開し、その中において今後尚一層“探究”の充実を求めるものとなっています。

この探究のより一層の充実を求めるには、やはり子ども達の自発的な意欲を求めて行く事が重要であり、その環境を作る必要があると考えます。

国ではR10年度の学習指導要領の改定へ向け議論が始まりました。

文科省に確認をとりますと、今回の改定にはこのカリキュラムの組み方に自由度を持たせる議論も入ると伺っています。

また、この学習指導要領の改訂を待たずとも、文部科学大臣の指定を受ける事で、学習指導要領の規定によらない特別な教育課程を編成出来る“教育課程特例認定校制度”もあります。

こういった制度を積極的に活用し、大阪の子ども達がより一層の意欲ある学びが出来る環境を作る事が非常に重要と考えるが、府立高校において今後さらなる特色を明確にしていく為にも、今後、特別の教育課程を編成して行く取組みについて教育庁に伺います。

授業のカリキュラムの組み方：工科高校3年間の例

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																
1年	国語												社会				数学				理科				体育				保健				英語				美術				家庭				工業技術基礎				工業情報数理				工業科目				学チャレンシ				学チャレンシ				LHR																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
2年	国語												社会				数学				理科				体育				保健				英語				選択科目				専門				専門				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語				専門英語			



2

<水野教育長>

府立高校では現在、3校が教育課程特例校制度を活用しており、各校の教育目標の実現に向けた特色ある教育活動を展開している。例えば、本来、必修科目として独立して実施される「情報Ⅰ」について、課題研究を行う学校設定科目の中でその学習内容を取り扱い、情報活用能力の育成と探究的な学びを一体的に進めるなど、特色ある教育課程を編成しています。

府教育庁としては、学習指導要領の改訂に向けた国の動向を注視するとともに、教育課程特例校制度の活用を含め、各校の特色ある教育課程の編成に対する支援に努めてまいります。

(広野 瑞穂 議員)

学校の特色化とは、学校の本来の意義である、何が学べるかと言う事をしっかりと打ち出し、子ども達が意欲的に学べる環境を作って頂きたいと思います。

“子ども達に教える学校”から“子ども達が学びたくなる学校へ”府教育庁にはこの改革を強く求めます。

3 鉄道の利便性向上に向けた今後の取組みについて

副首都・大阪を目指す上で重要な要素である、公共交通機関についてですが、大阪の鉄道網を関東地区と比較しますと異なる点があります。それはメトロを中心とする鉄道各社との相互乗り入れです。

東京メトロは13路線中、10路線、他社線との相互乗り入れを実現しており、これによってJRとは別で神奈川と埼玉、千葉など東京メトロを介して私鉄間同志の相互乗り入れが展開されております。

これによって首都東京は都内だけでなく千葉・埼玉・神奈川を巻き込み関東圏として大きな成長をしてきたといえます。

大阪メトロは9路線ありますが、その内相互乗り入れが行われているのは堺筋線と中央線2路線のみ。

大阪メトロと私鉄各社の相互乗り入れには、給電方式、線路幅、車両大きさの違いと言った課題がありますが、その中で給電方式に関して新たな動きがあり、注目する必要があると考えます。

先日近鉄グループホールディング㈱が公表した「近鉄グループ中期経営計画2028 では」近鉄奈良線から大阪メトロ中央線への相互乗り入れ、夢洲迄の直通運行を目指すとの有りました。

鉄道の利便性向上

別紙

【大阪メトロ中央線・けいはんな線と奈良線での集電方式の違い】

大阪メトロ中央線・けいはんな線

奈良線

第三軌条
(台車の集電靴から集電)

架空電車線
(屋根上のパンタグラフから集電)

「近鉄グループ中期経営計画2028」より 3

鉄道の利便性向上

7) 重点戦略の取組み ④ 沿線の価値深化・活性化 (夢洲周辺ハブエリア)

2025年開業の大阪・関西万博に加えて、2030年の開業を目指している大阪IR等により、今後発展が見込まれるハブエリア開発をビジネスチャンスと捉えて、事業拡大に向けた取組みを加速

大阪・関西万博に関する事業展開

万博会場内での出店

- 会場内にオフィシャルストアを出店する等、販促に貢献

大阪IRに関する事業展開

大阪IRとの連携強化

- 大阪IR(仮)の計画(予定)を踏まえ、併走に連携することで、大阪・神戸等、グループでの新たな商業開発の機会を創出

夢洲への誘客および近鉄沿線への誘客強化

- 大阪・関西万博会場と大阪上本町駅、大阪阿倍野橋駅を結ぶ万博シャトルバスを運行する等、鉄道面で万博客に貢献
- 上記2駅がハブとなり、万博会場から近鉄沿線(奈良大和路、伊勢志摩等)への誘客強化

4

既に試作も行われ、実現へ向け大きく進んでいると思われます。

この給電方式の異なる路線の相互乗り入れが実現すれば名古屋や伊勢志摩から夢洲・IRへの観光客誘致にも大いに貢献する事が想像できますが、それ以上に大阪の鉄道網を再編させるきっかけにもつながります。

奈良県ではこういった近鉄の動きに合わせて近鉄と包括協定を結び、今後、双方

の連携を深めて行く事となりました。

副首都大阪を目指し進めていく上で、メトロとの相互乗り入れに関しては先日の副首都推進会議の資料の中にも織り込まれ、記載されています。

副首都大阪を目指し、更にこれからの大阪の成長と発展を促し、大阪だけでなく関西全体を盛り上げていく上で、この相互乗り入れの件は府が中心となって議論していく必要があると考えますが、行政と鉄道事業者など関係者による会議体の設置状況と、鉄道の利便性向上に向けた今後の取組について、都市整備部長に伺う。

＜金森福祉部長＞

広域的な観点からアクセスの改善を図るため、既存の鉄道ネットワークを有効活用し、事業者が相互に乗り入れることで乗継負担の軽減に繋がる相互直通運転の実施については、副首都大阪の実現、大阪・関西のさらなる成長のため重要であると考えます。

議員お示しの会議体については、行政と鉄道事業者などが参加する勉強会を本年8月に立ち上げ、相互直通運転の実現を含めた乗継改善の取組などについて意見交換を始めたところ。相互直通運転については、「膨大な費用や時間を要するとともに、技術的な課題等がある」という意見や、「利用者の視点から、相互直通運転に限定せず、様々な乗継改善の取組を検討する必要がある」との意見をいただいた。

引き続き、事業者とも意見交換を行いながら、副首都・大阪に必要となるインフラの議論も踏まえつつ、相互直通をはじめ利用者の利便性向上に繋がるよう取り組んでいく。

（広野 瑞穂 議員）

是非とも実現へ向け、府としての前向きな展開をお願いします。

4① 社会的養護の受入体制について

泉佐野市が赤ちゃんポスト設けると言う話から、内密出産や望まれない妊娠による子どもを受け入れる事には注視されておりますが、子ども達を預かった後のについての議論があまりされていないのでは？と感じます

現状の乳児院の状況などから泉佐野市では独自で乳児院を設ける計画を発表しておりますが子ども達との関りは乳児期だけではなく、その後の成人までの最低でも18年間の長期にわたる養育環境についての議論もされるべきであると考えます。

先日、大阪府内の児童養護施設を視察し、施設の状況を確認、施設が感じる養育の課題などについて、意見交換を行いました。幾つかの課題の中で人材

に関わる課題についての話を伺うことが出来ました。

今後、乳児院や児童養護施設等において養育を担う、施設職員の人材確保に関し、府としてどのように取り組んでいくか、福祉部長に伺います。

<金森福祉部長>

内密出産等の取組みにより受け入れられた子どもは、長期にわたり社会的養護の下で生活する場合もあるため、中・長期的には、乳児院と同様に児童養護施設等の受け入れ体制の整備が必要。

府では、施設の人材確保のため、施設に就職予定の学生をトライアルで雇用する際の人件費の助成や、高校生に向けて、進路を決める早期の段階から児童養護施設等の職員に関心をもってもらえるよう、周知啓発活動を行っています。

引き続き、施設の意見も踏まえながら、人材確保に向けた府の支援策の更なる充実に取り組んでまいります。

4② 社会的養護の受入体制について

児童養護施設にて意見交換をした際、長期間支援を受けたあと、退所した児童の中には、卒園後、園との連絡が途絶え、社会の中で孤立している場合がある話を伺いました。

18歳で卒園、自立、形式的にはそうであったとしても現実的にはそう言うわけには行かないことが多々あり、卒園後の子ども達とのつながりを如何に継続し、子ども達が社会で孤独にならない様な環境を作る事も必要と考えます。

そこで、児童の退所後の支援について、どのように取り組んでいくのか、福祉部長に伺います。

<金森福祉部長>

現在府では、児童養護施設等を退所した者等が生活に困ったり孤立に苦しんだりすることのないよう、相談窓口の設置のほか、同じ経験をした者同士が気軽に集い、自立後の生活に関する悩みを共有し、繋がりを築くことが出来る交流の場を提供する「社会的養護自立支援拠点事業」に取り組んでいる。退所時には、困ったときの相談先として当該事業を丁寧に説明しているところ。

また、退所後に困難な状況に直面した際には、生活していた施設に助けを求めることも多いことから、施設に対し、退所に向けた支援やアフターケアを専任で行う自立支援担当職員を配置してもらえるよう努めている。引き続き、児童養護施設等で生活する子どもたちに対し、入所時から退所後まで切れ目のない支援の充実に取り組んでまいります。

(広野 瑞穂 議員)

児童養護施設に関する質問をさせて頂きました。

さて、預けられた赤ちゃんはどうなるのか。

10 年以上施設に在籍した子供たちは全体の 15%にもなり、この数字は年々増加傾向にあります。

こう言った背景からも、現在国の方針で児童養護施設は小規模化が推進されており、先日伺った児童養護施設においても日常の住環境生活としては個人の居場所がしっかりと確保され、驚くほど整った環境であり、子ども達の安心・安全な場所として十分機能しておりました。

しかしながら施設が充実しすぎる事から、本来、週末やクリスマス、年末年始など、自宅に戻るべき子ども達が戻りたがらない状況が発生しており、施設として大きな課題であるとの話も伺うことが出来ました。

熊本慈恵病院を訪問した時に、預けに来る方の傾向として一番の要因は両親や周辺からの“愛情不足”で育った方が多いと言う話を聞きました。

更には、母親が望まない妊娠をした場合、その想いが胎内にいる赤ちゃんに伝わり、赤ちゃんは自分が目立たないようにと母親の背中にくっつく方に向かってしまう傾向があるとも聞きました。

“負の連鎖”要は親の愛情、周りからの愛情を受けることなく出産した場合は、その後も同じことを繰り返えられる可能性が非常に高いと言う話も伺うことが出来ました。とても重たい話です・・・。

今、国のガイドラインで使われている内密出産、望まれない妊娠、こういう表現は非常に悲しい表現です。何とかこの言い回しを変えてほしいと切に願います。

本来赤ちゃんの誕生はその両親や家族だけでなく国にとっても非常に喜ばしい話であるにも関わらずこう言った表現が用いられてしまう。

だからこそ内密出産、予期せぬ妊娠による出産を如何に無くすかの議論も同時にされるべきであり、この議論無くして赤ちゃんポストや施設の議論だけが前に進んでいくのは、この先大きな誤解を生む可能性があり非常に危険だと感じます。

府として命の尊さをしっかり伝え、理解してもらい、内密出産、望まれない妊娠、こう言った事象がゼロになる、その為の施策を早急に構築頂くことを強く求めると共に、国へも求めるべきと考えます。

大阪府はこう言った子ども達の親代わりになれる自信が有りますか。

この子供たちの人生にとことん付き合う事は出来るのでしょうか。

生まれてきた赤ちゃんの命は尊く、その子供たちを見捨てない、その理念は否定するものでは有りません。又、子ども達の安心安全な居場所をしっかりと確

保する、これも大切な事だと認識していますが、その話だけが優先されるべきではありません。

“生みの親より育ての親” 子ども達の幸せと言うものを考えたときに、施設の充実や拡大をだけを検討するのではなく、先ずはその子供たちが“愛情不足”にならない環境を作る事が必要で有り、今ある制度としては里親制度や特別養子縁組制度を如何に活用するか？を議論すべきと思います。

施設の充実だけでは、其処にいた子供たちの心が完全に満たされるわけでは有りません。

“人を形づくるのは血より関わり”と言った言葉のとおり、“愛情不足”の環境で生まれてきた子ども達に如何に愛情をもって接していくことが出来るか？

“負の連鎖”を起こさせない、その為にもどうある事が子ども達の幸せに繋がるのかを議会の皆様も含めしっかりとした議論がされて行く事を強く求めます。

